

主 題： 新生した人①

聖書箇所： IIコリント5：15

私たちクリスチャンは死んでも生きるという希望を持って生きています。たとえこの肉体が減じようと私たちは主イエス・キリストとともに永遠を過ごすという希望です。その希望をもたらしたのが主イエス・キリストの復活でした。

◎ キリストの復活がもたらす希望と確信、そして祝福 Iコリント15章

パウロはそのことについてIコリント15章の中で、このイエス・キリストの復活が私たちにもたらしてくれた希望と確信について教えています。

① 「我々もよみがえる」という希望 13・16節

主イエス・キリストの復活が私たちにもたらした希望は、我々も必ずよみがえるということです。13節に「もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。」、16節に「もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。」とあります。聖書が私たちに教えていることは、人間は死んで終わるのではなく、眠ってしまうのでもありません。我々信仰者はよみがえって主イエスとともに永遠を天国で過ごす。そしてこの救いを拒み続けて来た者たちは同じようによみがえって主のさばきを受けてゲヘナ、地獄でもって永遠を過ごす。いずれにしろすべての人々がその死からよみがえると聖書は教えます。そしてそれが必ず起こる出来事であることを証明したのが主イエス・キリストの死よりの復活です。私たちが永遠の希望を持ってきょうを生きることができるのは、私たちの救い主が墓の中にいないからです。彼はその死から敢然とよみがえり、私たちもこの方と永遠を過ごせるという希望を与えてくださったからです。

② 「主イエスがまことの救い主である」という確信 17・18節

この復活が二つ目に明らかにすることは、主イエス・キリストがまことの救い主だという真理です。イエスの復活は、イエス・キリストが確かに救い主で、約束の救世主だという確信を私たちに与えてくれました。主イエス・キリストは十字架に架かる前から、十字架で死ぬことを、そしてその三日後によみがえることをお話になっておられた。そしてそのとおりにイエス・キリストはあの死より三日後によみがえって来られた。そのことが明らかにしたのは、彼が語っておられたすべてのことが真実であったということです。人間にはできない死に対する完全な勝利、死から約束どおりによみがえれることをイエス様はなし遂げられた。そのことによって彼こそが約束の救世主であること、そしてその死からのよみがえりを通して彼こそが命の源である神であることを明らかにしました。彼にいのちがあることを復活は明らかにしました。ゆえに彼のもとに来る者にそのいのちを与えてくださるのです。ですから私たち信仰者は確信と希望を持って生きることができます。このようなすばらしい救いの中に、この祝福の中に神は私たちを招いてくださった。私たちはきょう死んでも主とともに永遠を生きる、こんな幸いに、こんな祝福に与ったのです。

③ 救いがもたらした祝福：「新しく生まれ変わった者としての新しい生き方」

しかし、この救いが私たちにもたらした祝福はそれだけではありません。救いというのは新しく生まれ変わった者たちに、新しい生き方を提供するものです。救われたあなたに新しい生き方を提供するもの、それがこのみことばが教える救いです。

きょうご一緒に見たいのはIIコリント5章です。パウロはこの5章の初めから「天にある永遠の家」、つまり天国についての話をしています。我々クリスチャンにはすばらしい天国が約束されている、永遠の住まいが約束されているという希望について彼は語るわけです。そしてパウロはその後で、その希望をいただいている者としてどのように生きることが主の前に正しいのかを教えます。永遠のいのちをいただいて終わりではないのです。もしそうだとしたら、私たちはいのちをいただいた瞬間に神のもとに召されるべきです。しかし、主は私たちをこの地上に置いてくださっている。私たちが救われた者としての新しい生き方をこの地上にいて経験し、実際に行なって行きたすためです。

パウロ自身は、新しくされた者として、彼がなすことすべてを主イエス・キリストが喜んでくださることをいつも願って生きていました。彼が考えるすべてを主が喜んでくださるように願いながら生きた。それがパウロです。ですからIIコリント5：9にパウロは「そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。」と記しています。パウロはエペソの教会に対してもエペソ5：10で「主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」と同じことを言います。またコロサイ1：10でも「また、主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに

実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」と言います。そしてⅠテサロニケ4：1でも、テサロニケの教会の兄弟たちに対して「あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。」と言っています。パウロはこのコリントの教会だけではなく、エペソやコロサイ、そしてテサロニケにも同じように生きることを勧めています。パウロは主に喜ばれるように生きて行こう、主に喜ばれることをいつも考えて生きて行こうと言います。明らかなことはそれがパウロ自身の生きる目的であったということです。その目的に沿って、その目標に向かってパウロは生きていた。

しかし、このような生き方をしたのはパウロだけではなかったのです。あのモーセが、今まさにイスラエルに入っていくとする新しいイスラエルの世代に対して教えている申命記13：18で「あなたは、必ずあなたの神、主の御声に聞き従い、私が、きょう、あなたに命じるすべての主の命令を守り、あなたの神、主が正しいと見られることを行なわなければならない。」と言います。これと同じです。主の前に正しいことを行なうことによって主が喜んでくださる。主が喜んでくださることは主の前に正しいことを行なうことです。ですから主に喜ばれることを目標にしてすべてのことをなして行こう、そのように生きるのだというのは、新約のパウロの新しい教えではなくて、信仰の勇者たちが一貫して私たちに教えてくれるメッセージです。

このような主に喜ばれる歩みをなして行くという新しい生き方こそが主によって新しく生まれ変わった私たちに与えられた神様からの祝福だということです。最初に見たように、確かに私たちは死んでも生きるという永遠のいのちをいただいたという希望を持って生きています。我々は罪の赦しをいただき、救われた者としてきょうを生き、そして永遠を生きることが約束されました。しかし、祝福はそれだけではない。パウロが、このみことばが私たちに教えてくれるのは、我々新しく生まれた者たちは、新しく生まれた者としてそれにふさわしい生き方をなすことができる。それも神が与えてくださった祝福だと教えるわけです。パウロはそんなふう生きていたのです。

だからパウロは兄弟たちに同じように生きるように勧めます。Ⅱコリント5：9を見てください。「そういうわけで、肉体の中にあると、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。」「念願」ということばが出て来ます。「熱望する」とか「切望する」ということです。つまりパウロ自身がそのように生きていただけではない。パウロは自分と同じ救いに与った兄弟たちが同じように生きることを切望していたことをこの9節が明らかにしています。コリントの教会の人々はもとより、時代を超えて、地域を超えて、すべてのクリスチャンがそのように生きることをパウロが、いや神ご自身が望んでおられる。恐らくこの神様の救いに与った皆さんはそのように生きて行きたいという願いを持っておられるはずです。問題はどのように生きるか、どのように生きるかの手段を知っているかどうかです。救いというのは神様があなたに与えてくださる賜物、ギフトです。神があなたを救ってくださった時に、神はあなたの心にこういった新しい願いを与えてくださる。ですから、確かに自分自身を見た時に不完全で、失敗の連続です。神を悲しませることが繰り返されています。でも自分の心の中には神を喜ばせて生きたい、私のなすことも、私の語ることも、考えることもすべてを通して神に喜んでいただきたいという救われる前になかった思いがあるはずです。だから救われているのです。そういう願いを私たちは持っているのです。でもそれだけではなく、私たちが学ばなければいけないのは、ではどうすればパウロが生きたように、ペテロが生きたように、信仰の勇者たちが生きたように主に喜ばれることをいつも考えながら、その実践に励むことができるのか、そのすべを知らなければいけない。その手段を知ることが必要です。

☆ 新しく生まれ変わった人の「新しい生き方」

パウロはこの箇所でもそのことを教えてくれるのです。今日から私たちは2週間にわたって、新しく生まれ変わった人の新しい生き方についてみことばを学んで行きます。神様があなたに与えてくださったすばらしい祝福、救われるということについてパウロは私たちにとても大切なことを教えてくれています。正直実際自分で学んでいて、自分にとってとっても大切なレッスンでした。間違いなく皆さんひとりひとりにとっても非常に大切なレッスンになります。あなたはこのレッスンを通してご自分の救いは本物かどうかを吟味されるはずです。また同時に、あなたの信仰生活をも吟味することになります。なぜ今そういうことを学ぼうとするのかというと、私たちは黙示録の学びを通して、世の終わりが近いことを確信しています。だからこそ後悔のない生活をしっかりと歩むことが必要です。終わりが近づいている今だからこそ、もう一度この真理にみずからを照らし合わせて見る必要があります。願わくば主がみことばを通してあなたの心に働いてくださって、まだイエス・キリストの救いをお信じになっておられなければこの救いに与るように、救いに与っておられるクリスチャンであれば、あなたの生き方を吟味して、後悔のない生活をもって主にお会いする日を迎えることができるように、そのようなみわざを主がなしてくださることを確信しながら、この主のみことばを見てまいりましょう。

A. 「救いの力」 IIコリント5：15

IIコリント5：15「また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」、パウロは救いがどんな力を持ったものなのかを我々に教えてくれます。ただ天国に国籍を持つ者となった、罪の赦しをいただいただけではなく、それ以上のものだとして初めからお話ししています。救いというのは大変な力を持ったものです。パウロはそのことを私たちに教えてくれます。きょう私たちはそれを見るのですけれども、次回はどんな時にも神を喜ばせることを願いながら生きたパウロの歩みの動機は一体何だったのか、なぜ彼がそんな生き方をすることができたのか、大切な秘訣を見てまいります。

1. 「キリストの死の現実」

まず15節を見ると、最初の動詞「キリストがすべての人のために死なれたのは」と出て来ます。この時制が明らかにしていることは、これが歴史上の事実であるということです。この「死」はイエス・キリストの十字架です。主イエス・キリストが十字架で死なれたという出来事は歴史上の事実だと言うのです。それがこの15節の「死なれた」という動詞の時制が我々に明らかにしてくれることです。だれかの思いつきや空想話ではないのです。もしそうだとしたら、まだイエス・キリストが十字架で亡くなってから、何百年もたっているわけではありません。その十字架を目撃した人たちがいたはずで、彼らがそれはうそだと、声を上げることもできた。でも私たちは一切そういったことを見ることはありません。この箇所が私たちに教えてくれるのは、あのイエス・キリストの十字架は歴史上の事実だということです。確かにイエス・キリストは十字架で死なれたということがまず15節の中に記されています。

2. 「キリストの死の目的」：罪人を生まれ変わらせるため 15節

さてその後、実はこの箇所にはイエス・キリストの死の目的が書かれています。なぜイエス・キリストが十字架で亡くなったのか、その目的です。残念ながら日本語では15節の一番最後にあるのですが、「生きるためなのです」という接続詞を見てください。この15節の中にはこの接続詞は一回しか出て来ません。日本語では「ためなのです」と訳されています。この15節が言わんとしていることを明確に分かっていただくために、この箇所を私訳します。原語から直接訳すとこんな意味になります。「キリストはすべての人のために死なれた。その目的は『生きている人々がもはや自分のために生きないで自分のために死んでよみがえった方のために生きる』ためだ。」というのがこの15節が教えていることです。キリストがすべての人のために死なれた。その目的は生きているあなたが、この救いに与ったあなたが次のように生きることが目的だと言うのです。イエス様があなたのために十字架で死んでくださり、3日後によみがえってくださった。確かに神はあなたに救いを与えてくださった。罪の赦しを与えてくださった。でもそれだけではない。神があなたに望んでおられることは、救いに与ったあなたが次のように生きること、それが神があなたに望んでおられること、神があなたに求めていること、そしてこの目的のためにイエスは死んでくださったということをこの箇所は我々に教えるのです。

◎ キリストの死の二つの目的

何のためにイエス・キリストは死なれたのか——。罪人を新しく生まれ変わらせるためです。イエス・キリストが十字架で死んでくださったのは、罪人であるあなたを新しく生まれ変わらせるためです。

1) 「もはや自分のために生きない」

そのことに関してこの15節はどのように教えています。「もはや自分のために」生きない。「自分のために死んでよみがえった方のために生きる」と。どちらも「生きる」という話です。でも、これまでの生き方と新しい生き方の二つがここに記されていることに皆さんお気づきになるでしょう。あなたは新しく生まれ変わるんだと。それはまずこれまで自分のために生きて来たあなたが自分のために生きる人生をやめることであると15節は我々に教えてくれます。「もはや」、もう今までの生き方をやめるという話です。これまで生きて来たように生きないという話です。このことからこんなふうに救いを定義することができます。

* 「救い」というのはこれまで生きて来た「自分のために生きる人生」の完結です。

自分のために生きて来た人生の終わりなのです。皆さん、救いというのをこんなふうに考えたことがありますか？何となく救いというのは何か自分の欲しいものを手に入れるための手段だと思いませんか？罪が赦されたいからイエス様を信じましょう、天国に行きたいからイエス様を信じましょうと。しかし、みことばが私たちに教えてくれる救いというのは、生まれ変わることです。救いというのはこれまで生きて来た生き方をやめることであり、新しい生き方が始まることなのです。実はそのことがこの中に記されています。

◎ 「自分のために生きる人生」とは？

私たちが過ごして来た自分のために生きる人生とはどんな人生なのか考えてみましょう。

① 「自分中心の考えで生きる」：創造主のみこころよりも自分の考えを優先する

自分中心の考えに基づいて生きる人生です。創造主なる神様のみこころに従うよりも自分の考えを優先して生きる人生です。いつも私たちは自分の計画があり、この計画を何とか達成しようとしてきた。自分の夢を何とかかなえようと生きて来た。なぜそんなふう生きて来たのかというと、みんなこう言います。「だってこれは私の人生なのだから」と。悲しいことにその人は生かされている意味もその目的も全くわかっていない。そういう生き方をあなたも私もして来たはずです。

② 「自己愛で生きる」：創造主よりも自分を愛する

また自己愛を持って生きる生き方、こんな生き方も我々はこれまでして来たはずです。つまり創造主なる神よりも自分を愛するそんな生き方です。自分をだれよりも一番愛して生きる生き方です。大変自尊心が強く、自分が恥をかくと思えることはすべて避けようとする生き方です。主イエス・キリストに従うことによって、何か恥をかきそうになれば、私たちはそれを何とか避けようします。人の目や意見を余りにも尊重し、重んじるのです。人から笑われることや軽蔑されることは絶対に避けようとする。見栄をはって自分をよく見せようとする。そこまででなくても、自分に関して嫌なことを言われることが受け入れられない。そういったことは耐えられない。余りにも自分が大切なのです。この自分の愛する、大切な自分が傷つけられることを許せない。

③ 「自分の判断で生きる」：創造主よりも自分の力に頼る

また創造主よりも自分の力に頼って生きる人生を歩んで来たのではないのでしょうか。いつも自分を信じ、自分の力や判断を信じて生きて来た。たとえ人に相談したとしても、最終的には自分の判断で物事を決定する。しかもその基準は自分でできるかどうかです。

恐らくこんなリストはもっと続くのだと思います。私たちはこういう自分を中心に考えた生き方をして来たと言えます。救いというのは、そういう自分にピリオドを打つことです。これまでのそういう生き方にピリオドを打つことです。こういうふう生きて来た私は死んだというのです。

皆さんもよくご存じのガラテヤ2：20に「私はキリストとともに十字架につけられました。」とあります。何を意味しています？神に逆らって来た自分の死の話です。主イエス・キリストの十字架に自分自身もうはりつけにされて、私は死んだのだと言うのです。パウロは続けて「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」と言います。また同じガラテヤ5：24でも「キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。」とあります。パウロはローマ6：6でも「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、」と言っています。こうしてパウロが我々に教えてくれることは、我々クリスチャンは救われる前の自分を、神に逆らって来た自分を、神よりも自分を優先して来た自分を、神よりも自分を愛して来た自分を十字架につけて殺したのだと言うのです。かつての自分は死んだ、それが救いだと言うのです。イエス・キリストはそのためにご自分のいのちを捨ててくださったことを15節で教えてくれます。

2) 「自分たちのために死んでよみがえった方のために生きる」 ローマ6：4

続けてこの15節を見て行きましょう。イエス様の死の目的の二つ目は、生きている私たちクリスチャンが、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためであると。ここに、「自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」「死んでよみがえった」とあるのは、どちらも歴史的な事実であることを明らかにしています。死も歴史的な事実であるとともに、イエス・キリストの復活も歴史的な事実です。キリストの墓は空です。イエスはそこから完全に体を持って、肉体を持ってよみがえって来られた。その方のために生きること、この「生きる」というおもしろい動詞は目的を表わす叙想法という方法で書かれています。つまりこの15節が我々に言わんとしていることは、私たちイエス・キリストの救いに与った者たちはかつての目的ではなくて、新しい目的を持って生きるということです。その新しい目的とは、私のために十字架で死によみがえってくださった主のために生きることだと教えてくれるわけです。パウロはローマ6：4でも「私たちは……キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」と言います。「私たちは……キリストとともに葬られた」と繰り返しています。クリスチャンである私たちはイエス様とともに神に逆らってきた自分をあの十字架で磔にしたのです。神に逆らって来た私は死んだのです。そして「キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをする」と。死んだだけではない、私たちは復活したイエス様とともに新しくよみがえって新しい人生を生きるものとして今生かされているのだと。これが救いの力だと言うのです。最初から何回もお話ししているように、救いというのはただ天国を約束したのではないのです。もちろんそれもすばらしい約束です。我々がどうすることもできない、そのすばらしい救いのみわざを神様がなしてくださり、それを私たちに与えてくださった。でも、救いというのは、あなたを全く新しいものに造り変えるものだ、あなたの生き方を根底から変えるものだと言うのです。だからパウロは主に喜ばれることをいつも考えながら歩み続けていた。それは彼が新しく生まれ変わったからです。

* 二つ目に「救い」を定義するならば、主のために生きる人生の始動である。

結論：「救い」とはこれまで生きて来た「自分のために生きる人生」の完結であり、「主のために生きる新しい人生」の始動である。

これまでの自分のために生きる人生が終了し、主のために生きる新しい人生が始まるのです。それが救いだと言うのです。

◎ **キリストによる救いの力**：「生きている人」の生き方が変わる！ 使徒9：20-22

ですから、キリストの救いをいただいた者たちというのは生き方が変わるのです。パウロが私たちに教えてくれているのはまさにそのことなのです。いつの間にか私たちは、天国に入るためのただ切符のように救いをとらえ始めました。ですからその切符さえいただければ、あとは何をしても構わないかのように。次回私たちは驚くようなことを見て行きます。我々ひとりひとは今この地上にあってどのように生きるかという大きな責任を負っています。パウロが私たちに教えてくれたのは、神様が与えてくださる救いは、私たちを全く新しいものに造り変えるということです。これまでの生き方を継続しながらただ天国の切符をもらう、そんなものではないと言うのです。確かに永遠のいのちをいただきます。罪の赦しをいただきます。しかし同時に私たちは全く新しい者へと造り変えられるのです。今までの生き方ではなくて、新しい生き方を実践できる者へと私たちは生まれ変わるのです。それが神の救いだということをお我々に教えるのです。

① パウロの変化

少しパウロのことを思い出してください。パウロはエルサレムでクリスチャンたちを迫害しました。ステパノを殺すことに彼は賛成していました。なぜ彼はダマスコに向かったのか——。今我々がニュースでよく耳にするシリアのダマスカスですが、この時代はダマスコと呼んでいました。パウロがダマスコに向かって行った理由は皆さんも覚えておられると思います。そこに行ってより多くのクリスチャンたちを迫害するためでした。パウロはダマスコに向かって北上し、その途上で復活したイエス・キリストに出会うわけです。そしてその後彼はダマスコに到着しますが、ダマスコにいる人々はうろたえたと言っています。なぜ彼らがうろたえたのでしょうか？使徒9章がそのことを我々に明らかにしてくれています。パウロは復活のイエス・キリストに出会った後、人生が変わったのです。彼は「ただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。『この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。』しかしパウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。」と使徒9：20-22に出て来ます。なぜ彼らがうろたえたのかおわかりになりましたでしょうか？パウロが変わったからです。彼の生き方が変わったのです。イエス・キリストを信じる者を迫害していた人物がイエス・キリストを信じイエス・キリストを宣べ伝える者になったのです。これが救いだと言うのです。救いというのはこのような力を持ったものなのです。自分のために生きる人生から主のために生きる人生へと変わるのです。これが救いだと言うのです。罪の奴隷として永遠の呪いの中に生きていた私たちが永遠の祝福の中に招き入れられるのです。永遠のさばきを受けるにふさわしかった私たち罪人が永遠のいのちをいただくのです。罪の束縛の中にいた私たちが新しいいのちへと解放されるのです。そして神のために生きるという創造の目的に沿った人生を送ることができる者へとあなたも私も生まれ変わったのです。これが救いだと。

② 自分の信仰を吟味する

ですからこうしてみことばを見る時に、ご自分の救いが聖書の教えているものなのか、そのことを考える必要があります。自分の欲しいものを得るためにただ信じるというのは残念ながら聖書が教えるものではありません。私たちは罪の悔い改めをもって主が備えてくださった完全な救いをいただくのです。我々が何度も学んで来たように、主イエス・キリストを信じるというのはこの方を私の神として、主として従って行くということです。もちろん確かに人間には難しいことです。でも救いというのは彼がなしてくださるみわざなのです。そして神があなたのうちに救いをもたらしたならば、神はあなたを全く新しいものとして造り変えてくださる。あなたに新しい願いや新しい目標を与え、そのように生きて行く者へとあなたを造り変えてくださる、それが救いです。もしかしたら多くの皆さんは、確かに心の中には主に喜ばれる歩みをして行きたいという願いがありながら、日々の生活を見たら、神を悲しませることばかりだと大変な悲しみを持っておられるかもしれない。神が喜ばれることをして行きたいけれども、私のやっていることはそれとは全く逆のことだと、自分を見て嘆いておられるかもしれない。しかし、そのような思いを持っているのは、あなたうちに神が働いているからです。「悲しむ者は幸いです。」(マタイ5：4)、なぜ悲しむのでしょうか？神の前に喜ばれたいという願いを持っていながら、それができていない自分を悲しむのです。それはあなたのうちに主の働きがあることを明らかにしています。神があなたを新しく生まれ変わらせてくださる。しかしそれでいながら私たちの肉はかつての生き方に、

かつての歩みへあなたをいま一度引きずり込もうとします。もしかしたら知らず知らずのうちにあなたは、救われていながらかつての生き方を行なっている可能性があります。

② 主のみこころを求め

少し考えてください。あなたは主のみこころに従うことと自分の考えに従うこと、どちらを優先されていますか？救われる前は間違いなく我々は自分の考えに基づいて生きて来ました。そして主のみこころに従って行こうという決心をしました。ところがいつの間にか私たちは徐々に自分の考えに基づいて生きるようになっていませんか？主のみこころを求めています？それとも自分の考えがみこころになることを求めています？私たちは主のみこころに自分の考えを添わせて行こうとするのです。自分の考えを主のみこころに沿ったものにしようとするのです。でも残念ながら肉はそうはさせまじとそれと全く逆のことをするのです。主のみこころをあなたの考えに沿うように。もしそうだとしたら、かつての生き方に引きずり込まれている。

③ 恥を恐れない

またあなたは主のために喜んで生きて行こう。主を喜ばせて生きたいという思いを持っていながら、その信仰ゆえに恥をかくことを避けていませんか？私は主イエス・キリストを信じ、この救いに与っています、そのことを人々の前で証することを恥じていませんか？救われた時はそんなこともなかった。自分がこの救いに与ったことを喜び、そのことを人々に伝えていたけれども、段々時間がたつにつれて、そんなことを言うと友達がいなくなってしまうのではないかといったさまざまな恐れから自分が恥をかいしたり、そのことによって大切なものを失ってしまったり、傷ついてしまったり、そんなふうにしてキリストを大胆に証することを躊躇していませんか？もしそうだとしたら私たちはかなりかつての生き方に引っ張り込まれています。

私たちは私たちの主のことをもう一度思い出さなければいけない。主はあなたを愛するために、またあなたを救うために何度も何度も辱めを味わわれた。ルカ 18 : 32 で「人の子は異邦人に引き渡され、そして彼らにあざけられ、はずかしめられ、つばきをかけられます。」とイエス様は言われています。そのとおりのことが主に起こりました。「あざけられ」た、ばかにする、嘲笑うということです。「はずかしめられ」、侮辱される、人々が彼に無礼を働くということです。確かにイエス・キリストの歩みを見た時に、救いに来てくださった救い主なる神に対して、自分たちを造ってくださった神様に対して被造物がなしたことは、彼をばかにする、彼を嘲笑う、彼を侮辱する、彼に無礼を働くことでした。この創造主なる神に「つばきをかけ」て嘲笑ったのです。なぜ主はそんなことをよしとされたのか、なぜ主はこんなにも辱めをお受けになったかです。あなたを救うためです。主はご自分のことなど考えておられない。あなたのことを考え、この救いをあなたに与えるためにこんな犠牲を払ってくださった。

イザヤ 53 : 3 を思い出します。「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。」と。そのとおりのことが主イエス・キリストに起こっている。「彼はさげすまれ」、つまり嫌われ、軽蔑されたということです。人々からのけものにされ、見捨てられたという意味です。「彼を尊ばなかった」、全く尊敬を払わない。口語訳聖書はこんなふうにこの箇所を言います。「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。」と。主がこんな生活を、こんな歩みをなされたのは、あなたや私をその罪から救い出すためです。

③ その秘訣：心の貧しき者

主がここまであなたのためにしてくださったのに、なぜ私たちは主のために生きることを躊躇するのでしょうか。なぜ主によって救われていること、私たちが神の子どもであることを証することを恥ずかしがるのでしょうか。どうしてあなたはこの主よりも自分を優先するのでしょうか。人から自分がどう見られるか、どう思われるか、そんなことを優先するのでしょうか。あなたにとって優先すべきことは、人がどのようにあなたのことを思うかではなくて、主があなたをどのように思われるかではありませんか？主がどんな愛でもってあなたを愛してくださったのか明らかです。

私たちはそれにどのようにこたえているかです。恐らく自尊心が高く、自分が恥をかくとか自分が傷つけられるとか、自分がばかにされる、そういうことを何としても逃れようとする人は、本当の自分がわかってないのです。なぜなら人があなたに対して悪評を立てる時に、それに対して怒りを覚えるというのは、あなたが本当の自分をわかってないからです。イエス様のメッセージを思い出してください。文語訳は「幸いなるかな心の貧しき者、天国はその人のものなり。」とあります。「心の貧しき者」、その人は自分の本当の姿を知っている人です。ですから人がどんな批判をしようと、悪口を言おうと、悪評を立てようと、その人は自分がそれよりももっと劣った存在だということを知っているから、そういったことに対して腹を立てることがないのです。自分の本当の姿を知っている人は、たとえ人々が何を言ったとしてもそんなものに動じない。かえって私たちは、この人たちは私の本当の醜さをわかっていないと思

うのです。そういう人は幸いだ。本当の自分を知っていたら、人が自分をどんなふうと思うかとか、どんなふうと言うかはどうでもいいのです。私たちはそういう生き方から救い出されたのです。主が喜んでくださることを考え、そのように生きる者として生まれ変わったのです。それが救いなのです。

④ 主に信頼する：神の働きを妨げないために

ひょっとしたら私たちは今もまだ創造主よりも自分の力に頼って生きているかもしれない。そういう生き方から救い出されているにもかかわらず、我々はかつての生き方に引っ張り込まれている可能性があります。どういうことかということ、あなたは主のみことばを聞き、主のみこころを知ります。これが主が望んでおられることだということを経書を通して聞きます。それに従うかどうかの判断はあなたが下さなければいけません。しかし、多くの場合、主のみことばを通して示されるみこころに対してこれは私は無理だ、実践できない、不可能だとも思っているとしたら、あなたは今までの自分と変わらないのです。しかもその無理だとか、できないとかということに見事な口実があります。私はとても忙しいのですとか、年齢のことを口実にするかもしれない。ある人は私はまだ信仰が浅いからと言うかもしれない。しかし、あなたが知らなければいけないことは、あなたのことをだれよりもご存じである神が命じておられることに対して、できないと言うことが不信仰なのだということを知らなければいけないのです。

あなたの弱さをご存じである神が命令の実践のために助け手である聖霊なる神を備えてくださっているにもかかわらず、もしできないと言うのであれば、あなたは神のことばを信頼していないのです。そのようなあなたの応答というのは、自分でできるかどうかを判断しようとしているからです。我々は、かつてのそういう自分から、神の言われたことを信じる者へと生まれ変わったのです。神様が喜ばれることをなして行こうとするならば、神のみこころに従う以外にその方法はないということを経書は見て来ました。つまり、神ができると言われるのにできないと言うこと、神がしなさいと言うのにいやですと言うこと、もしそのような応答をするのであれば、残念ながら神様はあなたを通して働くことができません。なぜならあなたがそれを拒んでいるからです。神があなたを通してなそうとする働きを拒絶しているのはあなた自身だということに気づかなければいけない。そして今すぐその不信仰を悔い改めることです。主よ、私を赦してください。あなたが言われたことは必ずそうなり、心から信じてあなたを信頼して従って行ける、そんな信仰者に私を変えてくださいと。その時に主があなたを通してどんなみわざをなされるか、あなたは期待できる。でもあなたがそれをせず今までの地上での信仰生活を終わったら後悔が残りませんか？主はあなたに救いを下さった。新しい生き方をする者として生まれ変わらせてくださった。あなたを通して神は栄光を現わしてくださる。でもその働きを妨げているのがあなた自身の罪であると。

主の御力があなたを通して明らかにされることを私たちは望むことです。そしてそのためには、主に働いていただくことです。もしこの中で私は間違った歩みをしていて、新しく生まれ変わったにもかかわらず、私の問題はそこにあったと思われる方がいたら、今主の前に悔い改めて赦しを求めることです。主は赦してください。そして主の約束を信じて従うことです。主よ、どうぞ私を使ってあなたの御栄えを現わしてくださいと。そんな信仰者が私たちには必要です。主よ、私を使ってください。あなたの栄光を現わす器として使ってくださいと、そんな信仰者が我々には必要なのです。年齢には関係ない、性別にも関係ない。信仰の年数にも関係ない。神のことばを信じ、そのように生きて行きたいと願う、そんな信仰者が必要です。あなたはどのように歩んでおられますか？もっと言えばそのように歩もうと願っておられますか？どうぞご自身の信仰を吟味してみてください。救いというのは神があなたを新しく造り変えてくださることです。自分のために生きて来た人生を終えて、神のために生きる人生が始まったのです。そのように生きることです。そしてそのことを望んでおられる神があなたに必要な助けを下さる。それを信じて生きるのです。そのような歩みをきょうから始められることを心からお勧めします。

《考えましょう》

1. 「主イエスの復活が証明すること」を挙げてください。
2. 「キリストが死なれた目的」を説明してください。
3. 「きょうのみことばが教える救い」を、あなたのことばで記してください。
4. あなたが主から教えられたことを信仰の友と分かち合い、実践のために祈ってください。